

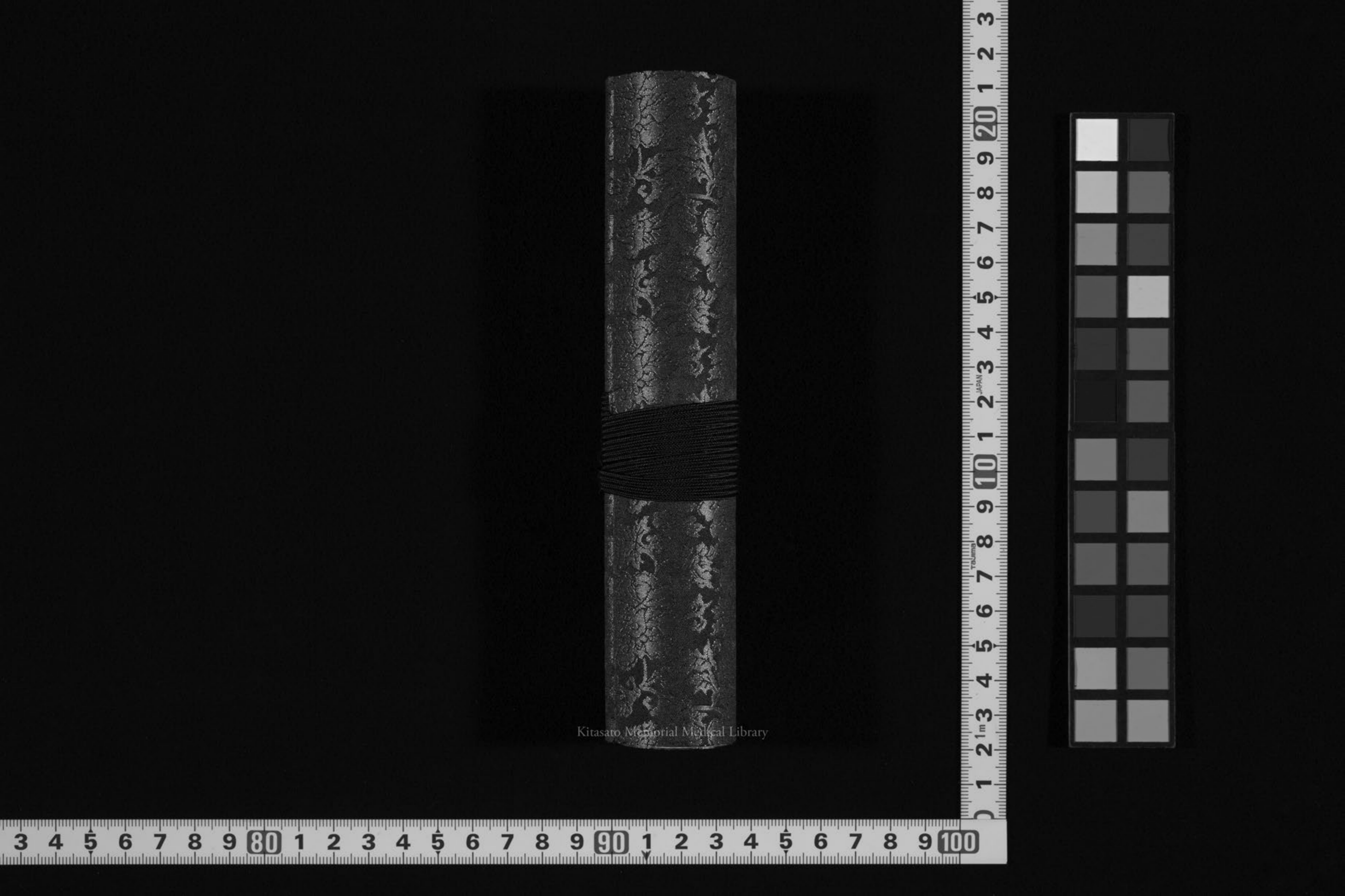
奈須家資料五  
獨流插花免許狀

4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100

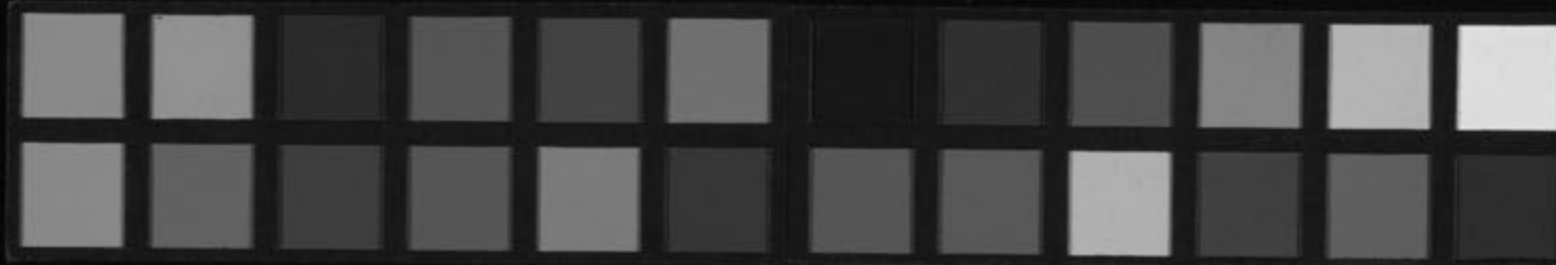
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



Kitasato Memorial Medical Library







1732

Kitasato Memorial Medical Library







# 挿花序

又獨流者不謂當時世とに  
 此の波我の海に挿め給は  
 心ゆくは世の如くはと  
 身と可なりと一體也

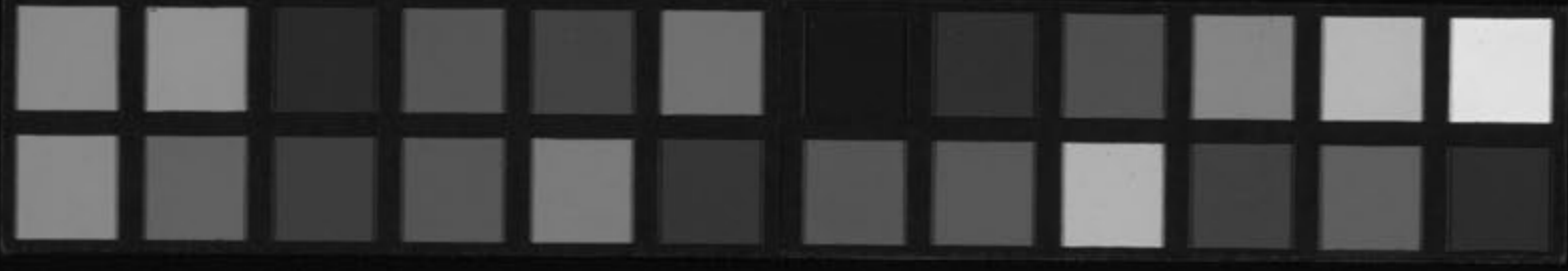
先ん床に向多振動波の床系を  
 之を去るは依り懸物の底子お家組



Kitasato Memorial Medical Library







尚と可なり一體也

先帝の向多抗敵の政阿の床前と宗  
之を去らば然く懸物の衣子お家親  
掛物の内御製或書人々儒博学の  
師等共の經文和歌亦古人の詩歌  
連綿不斷等深く見まらるる如の  
感と能き事なり況んや可入可免  
所執等と云ふと所て云々(沈接収  
之意及辨述而後述多而論之  
こ所帝の向心と法多可免  
多と云ふの事なり然れども之を  
指すも亦云ふと云ふも曲々後  
之ら覺てりてつと法と掬の事  
おとと遠く論ハ大書院又卑下  
或之苟亦有阿心書院又辨  
有又小所方右阿家席亦云々  
抛入者も阿心北之苟家道  
の缺と部と事事事と云々  
元祖流儀ゆ流るる阿の揚流  
之を阿心流流を云々年久探  
之阿心揚流と號一大年  
揚流の缺と事云々條云々不  
可傳其終之化見此言謹而  
不可知云々

揚流樂齋柳子





不可知之命  
揚流樂齋柳子

享和元年辛酉年

辰辰取

子畫文と云祥日

所無

古樂所

秀雅人

卓下之筆

一白玉指二葉

此詩

右卓の下

より前より後より白海前くけり  
なりふを様の外に季もに海  
をわくはらうそより新也と云  
香りのもと始ふ

書院床の部所 楮旨

一床と幅刺之巻の智火成部せり  
内中の二画いかに切つたもる若  
り居人物に平たけ西海小あま  
小生をむ之登りしる巻一つん  
向てて生花角に名下とのをてて生

此楮旨床の角の窓一を  
にみこの枝に若床よりあふ  
ふ若やふてをせん

に季祝儀可也



しみの木...  
ふき...  
ふき...

四季祝儀書之事

一春者梅福者牡丹の下...  
夏は牡丹秋は菊冬は...  
花の海を...  
も...  
月...

元日祝儀書之事

玉の首...  
根...  
の...  
又...  
...

婿姻書之事

一婿...  
の...  
相...  
又...  
...

限古老實客所紅菊之事

一限古老實客所紅菊...  
...





限古又老人の年

限古老實客の紅菊下生  
也葉大なる月より生勿海満  
の葉花をり降り風流なるも  
只花およそ菊として生るる品

旅河巻之事

一 務之の菊の初の下に播して葉は  
昔から挿すなり 柳の枝を  
を結い寄るも柳條曲枝の如き  
毛を挿す事 向す下知る也

新宅菊之事

一新衣菊の菊の紅と橙白と  
海に能く菊葉枝より海満  
をいふ葉をとりて菊おんす  
つてを

留衣北法菊之事

一 留衣菊の菊をとりて菊葉を  
紅をとりては河の菊を  
とりては菊をとりて乃は菊人

河内菊の事

一 河内菊の菊をとりて菊葉を  
とりては菊の葉をとりて  
水多し之菊中に入らるる菊の  
取入又花より取入て菊葉を  
採取生るるを相取おこす也





水多し先瓶申すまら茶の心せ  
一廿入又ねらうし服をて紙葉之を紙  
形紙生とて生相紙おとくさふ  
いふ紙葉おつる色し何中たのこ  
の心せたる葉とて紙下用紙の  
紙

茶葉高麗の事

一茶高麗高麗の心せし中へは除り  
たれも志きくこを同茶生を  
色し忽再く事ありし  
紙

者我の事

一色紙の坊に紙版をん多者高麗  
一色紙山標の紙版と紙版者高麗  
紙版をん多し紙版を細く  
紙版の心せし紙版を細く  
一紙の標より紙版を紙版の心せし

茶葉蘭の事

一茶らん茶葉建茶葉紙版をん  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし

杜若の事

一杜若二投葉とて紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし  
紙版の心せし紙版を紙版の心せし





一葉入拊方の二葉は根を不葉にして  
之をのれ葉にんすは深きなり  
陰陽を平外は李の杜若は  
の葉を委くする可なり江傳

瓶中の四季水多あり

一瓶中の水多し春水満は津  
と多し夏は清く夏は満とに  
奇生所積水と葉をみそ  
水多しし但し和音磁器は  
燗物にんす之又積水と減し  
冬は瓶の中をす程下に可なり  
但し瓶中生るは葉をす所  
易の丸粒と用色又は結可  
秘事一肝要也

右指ふく條多し年

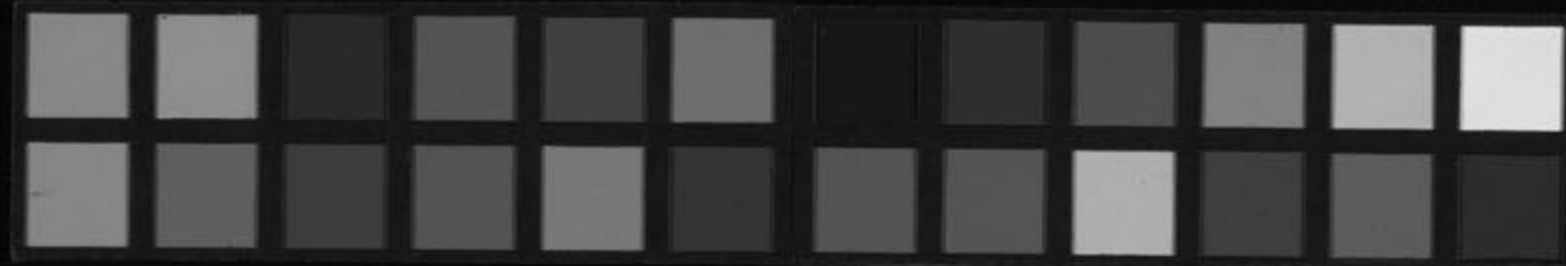
我獨汎然平は拊

奇統子練中は

一軸附無く者也

享和元 辛酉年





景統子練少  
一軸附無之者也

享和元<sup>辛酉</sup>年

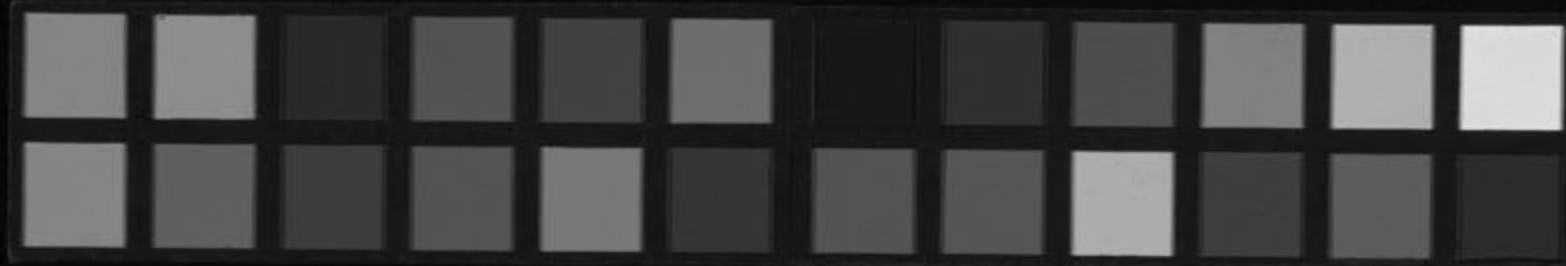
書于吉野日

武陵天仁山

秋蘿皴

樂齋柳子





武陵天公山

秋蘿發

樂之齋柳子

